



#彩の国けんけつ NEWS !!

第3号
～2018年冬～



埼玉県立
常盤高等学校
JRC部

コラボ



日本赤十字社
埼玉県
赤十字血液センター



／ こんにちは！！
埼玉県立常盤高等学校 看護科 JRC(青少年赤十字)部です！
常盤高校は、看護師を育成する5年一貫の専門高校です！
未来の看護師であるわたしたちから、
／ 埼玉県民のみなさんへ献血情報をお送りします！



埼玉県献血マスコット「エビオ君」

テーマ：どんな人が**輸血**を必要としているの??

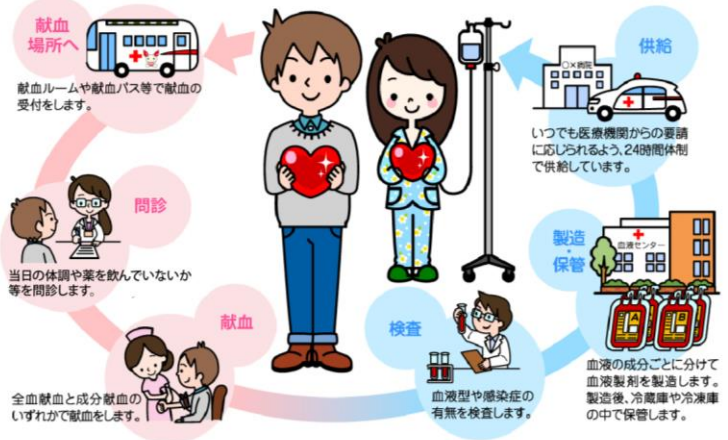
★血液が患者さんに届くまで(おさらい)

みなさんは、献血された血液が輸血を必要としている患者さんのもとへどのようにして届けられるかご存じですか？

「彩の国けんけつNEWS第1号」で紹介したとおり、右のイラストの流れのようになっています。→

では、そのようにして、献血された血液はいったいどんな人が必要としているのでしょうか？

その謎を解決していただきたく、今回の新聞を作成しました。



★本当に足りないの？

みなさんは、駅やデパート前、学校などで「献血のご協力よろしくお願ひします！」という声をよく聞きますよね？

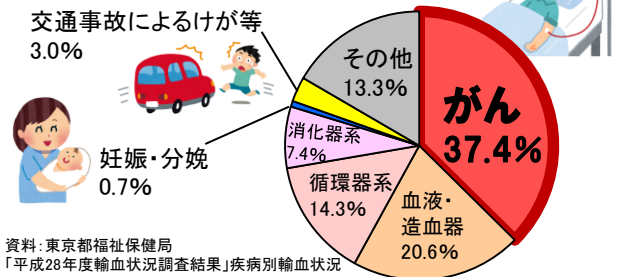


特に人通りが多い駅前では、毎日のように呼びかけているため、「そんなに足りないの？」
「毎日やっているから本当は足りているのでは？」
と思っている人も少なからずいると思います。

実は、血液製剤は有効期限が定められており、一番短い期間で4日となっています。1日に不足する分は、日々献血によって確保する必要があります。そのため、日々献血のPRをしているのです。

★どんな患者さんに使われているの？

不慮の事故を想像される方が多いと思いますが、輸血用血液製剤の多くは、がん(悪性新生物)の患者さんの治療に使用されています。また、使用する方の約85%は50歳以上です。



資料：東京都福祉保健局
「平成28年度輸血状況調査結果」疾病別輸血状況

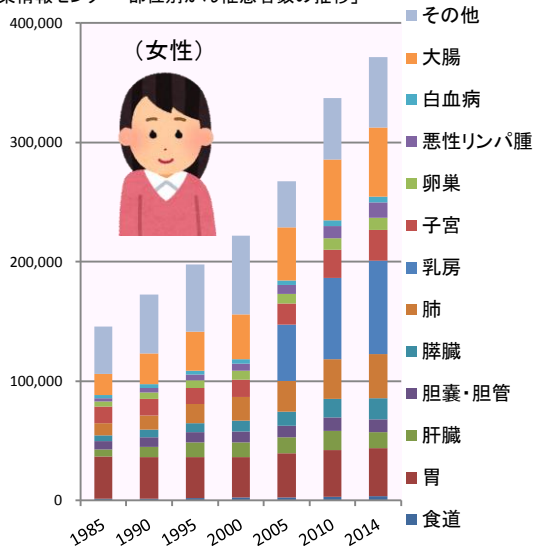
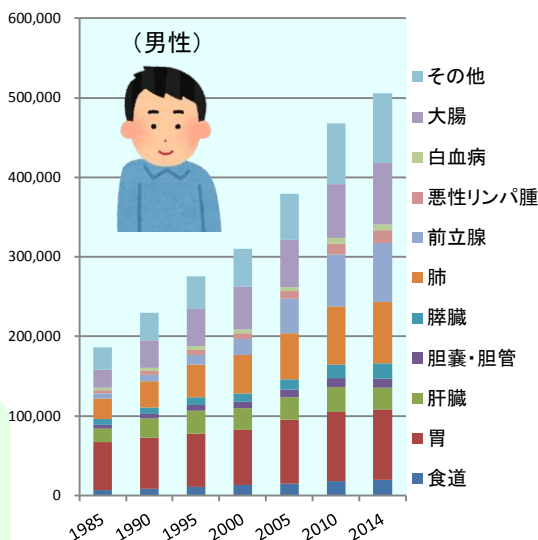
血液は栄養や酸素の運搬、免疫など人間の生命を維持するために欠くことのできない機能を多く含んでいます。現在、血液の機能を完全に代替できる手段は存在しないため、輸血は医療において欠かすことができない治療法となっています。



★がん罹患患者数はどんどん増えている！

資料：国立がん研究センターがん対策情報センター「部位別がん罹患患者数の推移」

グラフのように、男女とも、がんの患者数は、1985年以降増加し続けています。2014年のがんの患者数は1985年の約2.5倍です。がん患者の増加の主な原因は人口の高齢化ともなわられています。

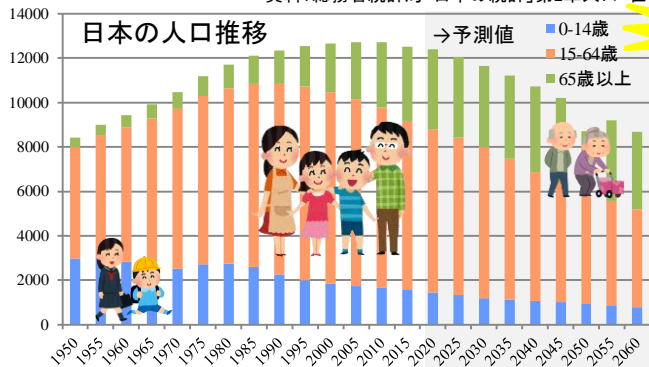


2人に1人ががんになると言われている時代。他人事じゃないですよ。

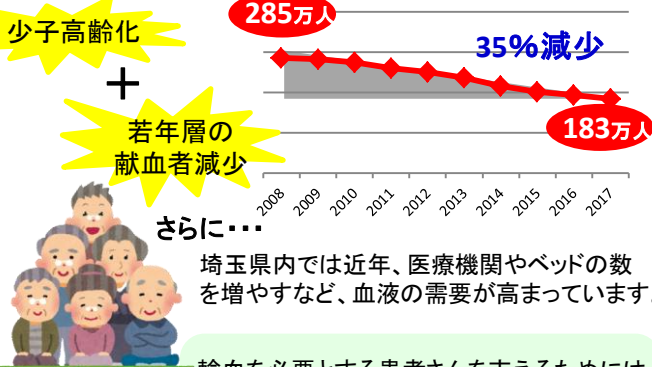


★少子高齢化と献血状況

資料：総務省統計局「日本の統計」第2章人口・世帯



しかし・・・、この10年間で、10～30代の献血は、35%も減少してしまいました。



さらに・・・
埼玉県内では近年、医療機関やベッドの数を増やすなど、血液の需要が高まっています。
輸血を必要とする患者さんを支えるためには、今まで以上に！皆様から献血のご協力をいただく必要があります。

このままのペースで少子高齢化がすすむと、若者（献血する側）は減少、高齢者（輸血を必要とする側）はますます増加します。

★編集後記

今回の冬号では、「献血をどんな人が必要としているかについて」情報をお届けしましたがいかがでしたか？

さまざまな原因がありますが、主のがんの患者さんが4割と非常に割合が高いことが分かります。

それに対して輸血をするための血液の確保はよりいっそう厳しくなります。

しかし、血液は人工的に作る事ができません。そのため、みなさんの献血へのご協力が必要不可欠です。

どうか皆様、献血へのご協力引き続きよろしく願いいたします！



『大宮経済新聞』

(広域大宮圏のビジネス&カルチャーニュース)

と『Yahoo!ニュース』にわたしたちの取り組みを掲載していただきました！



<https://omiya.keizai.biz/>

これからも応援よろしく
お願いします♪

はげみになります！
感想やリクエストはこちらまで！
埼玉県赤十字血液センター企画課
st-kikaku@kts.bbc.jrc.or.jp

